

令和元年度 第4回 よこすか地域支え合い協議会 会議録

開催日時：令和2年2月6日（木） 午後2時より午後4時まで

開催場所：横須賀市役所3階 301会議室

出席者

【構成員】 16人

稲葉 抄子、森 弘樹、沼崎 真奈美、小林 二三代、九鬼 貴紀、磯崎 順子、
小川 喜久雄、加藤 春樹、長雄 市子、佐野 美智子、千葉 順子、和田 浩、古谷 久乃、
小貫 朗子、田中 知己（順不同、敬称略）、伊藤 弘道（記）

【事務局】 6人

小林 幸男、河島 夏美、川田 貴久江、中山 ちひろ、馬場 潤、浅羽 優貴佳

【傍聴者】 3人

1. 開会

座長の司会により開会した。

2. 傍聴者の確認、配布資料の確認

欠席者、傍聴者の確認を行った後、配布資料を確認した。

3. 議事

(1) 各地域（第2層）の取り組みについて

〔説明要旨〕

前回の会議から各地域の取り組みを議事の冒頭に設けた。各地域の取り組みについて、事務局から資料1に基づき説明した。

【大津】中学校で地域貢献活動を勉強している。支え合い協議会から声をかけてみてはどうか、との意見が出た。

【追浜】アンケート作成について意見を交換している。課題抽出のみではなく、支え手の発掘を視野に入れる方向で進めている。

【田浦】「地域活動集」、「実態把握」、「人材育成」の3つの小部会で取り組むことを検討したが、丁寧に活動を把握することを目的として「地域活動集」のみに一本化した。

【浦賀】2月5日に活動報告会を開催、テーマを設けない意見交換により状況が異なる町内間で活発な意見交換がなされた。いつでも開いている町内会館を通いの場として、生活支援との接点にすることを今後の取り組みとして考えている。

【北下浦】どのような支え合いがあるのかを知ることで、今後の進め方を探っている。生活支援を中心に3月5日期限でアンケート調査を実施する。

【久里浜】「支え合いについて考える人をたくさんつくっていこう」をモットーに講演会を来年度に開催する予定である。昔あった支え合いの歴史を紐解きながら、隣近所で

助け合う大切さを伝えようとしている。地域自慢大会の企画もある。

2月27日（木）に各地域支え合い協議会同士の交流会を計画している。各地域の横のつながりをつくり、情報を共有することを目的としている。次回に結果を報告する。

〔質問、意見等〕

構成員：大津地域の中学校における地域貢献活動について、活動団体と中高生との交流はあるのか。

事務局：中高生と何かを企画するようなことはまだない。構成員が中学校に話をしに行っている。

構成員：既に社会貢献のカリキュラムがある学校と活動団体の交流を提案する。

構成員：岩戸中学校では地域活動のチラシ配りに参加して貰い、達成感があったように思う。小中学生の車椅子体験をいわとともしびチームが出向いてやっている。事例は他の地域にもあると思う。

構成員：さわやか福祉財団の「助け合い体験ゲーム」がある。困りごとがある人と、それを助けられる人を引き合わせるゲームであるが、議論が活発になった。このような助け合いツールを使って話し合いを活性化することもひとつの方法論だと思う。

事務局：「助け合い体験ゲーム」は市も持っている。活動団体立ち上げの相談などがあった際に、「助け合い体験ゲーム」を持って出向き、ゲームを通じて理解を深めて頂いている。

構成員：追浜ではアンケートを再度実施するとのこと。まだアンケートの段階なのか。どのくらいの期間をかけてアンケートをとるのか。この先をどのように進めるのか。

事務局：追浜は2回目のアンケートとなる。1回目は現状把握を目的として、どの地域にどのような活動があるのかを把握した。民生委員が尽力していることが分かってきた。今回のアンケートは活動できるかを問うなど、前に進めるものである。

構成員：第一層、第二層とも手詰まり感を感じている。平成28年から3年経過しているが、市も手詰まり感があるのではないか。打開策を講じないと時間だけが経過するのではないか。

事務局：スピード感があるとは言えない。しかし、当初は支え合い協議会とは何かを理解して頂くことから始まった。支え合い協議会の意義、必要性を今は構成員が自覚している。活動団体も育っている。スピード感は不十分かもしれないが、確実に進捗していると評価している。

構成員：活動団体が出てきたり、通いの場は生まれているのは理解している。支え合い協議会で仕組みを作ることより、芽生えている団体を育てることでスピードが速くなるのではないか。

構成員：30年間団体で活動してきた。人口の変化で活動が変化している。既存の団体が周りを見ながら活動を変えている。団体を立ち上げるのは大変なこと。追浜や田浦も

沢山のボランティア活動がある。今の時代に合うように視点を変えると見えてくるはず。落胆しなくてもよい。切り口を変えると宝物がある。時代にあった活動になるように後押しすればよいと思う。

構成員：浦賀では地域運営協議会から支え合い協議会を引き継ぎ、その理解に1年かかった。そして「やっぱり必要だ」という気持ちに皆がなっている。あと1年2年かけて後押しすることで立ち上がってくるものがある。上からでは人材も少ないので上手くいかない。出ている芽を育てたい。

構成員：もう少しの後押しとは具体的に何なのか。具体的に何ができるのかを考えたい。時間がない人がどうしたら時間が作れるか。地域で芽が出ている人をどのように後押しできるかということ。

構成員：やる気がある人に大きな負担がかかるのが苦しい。代表に全ての責任を持たせないよう、二人で交代できるような体制なら負担が分散し、色々な人が参加しやすくなる。他の活動団体と交流するのも良いこと。風通しの良い組織づくりが良い。

事務局：もう少しの後押しでは苦慮している。相談を受ければ類似の活動をしている団体と引き合わせている。団体の活動が停滞気味であるとの悩み相談も受けている。後押しという点では十分でない部分はあるが、一助になれるようにしたい。

事務局：地域で芽生えている芽を見つけるよう連携をとっている。

(2) 各地域の取り組みからの検討事項

〔説明要旨〕

前回のよこすか地域支え合い協議会において、支え合い活動中の重大転落事故が構成員より報告された。転落防止の注意を促すチラシを配布している。住民主体の活動を制限しすぎることなく、安心して活動できるよう支援するための見識をいただくもの。

〔質問、意見等〕

「支え合い団体の安全確保について」

構成員：安全確保の対策は転落事故に限らないこと。活動の中心は70歳代であり、夏は庭作業などはしない。現場を見てやれること、やれないことを見極める。事故防止は高所作業だけではない。心がけていることを形にして、伝えることも大事。

構成員：平日昼間はボランティアが少なく、高齢化している。市民活動サポートセンター(以下、「サポセン」という。)では、のたろんフェアでのパネル展示を思い切って止めた。以前は追浜からボランティアがパネルボードを運搬して設置していたが、今回から活動団体紹介は机のみでお願いしている。パネルボード運搬設置の際これまでに小さな怪我があり、運営で判断した。

サポセンでは子ども食堂ネットワークをつくっている。そこにアレルギーが心配という声が上がった。ネットワークとして講師を招いてアレルギーの勉強をした。子ども食堂の関係者が新たな知識を得て、対応も解ったという。個々の小さい食堂で勉強会を開催するのは難しいが、ネットワークで対応した例である。

個々の団体では難しいことを、支え合い協議会で講師を招いて安全講習をするなど、全体として情報を伝えていく仕組みがあると良い。

構成員：協議体は多職種が意見を交換する場であり、持ち帰って頂くのもありがたい。

構成員：ボランティアは高齢化している。体調管理は自己責任ではあるが、団体としてはどのような対応をしているのか。

構成員：安針台アンセドフランでは高所作業はやらない。できない作業は事前にお断りの文書を配布している。特技だけではなくウィークポイントを明示している。脚立作業は基本的にやらない。やる場合は3段以下で2人で作業する。梯子作業は絶対にやらない。今までに大きな怪我はなく、小さな火傷程度である。

構成員：今までの活動で大きな怪我はなく、手を切る怪我があった程度。腰が曲っている人もおり、迎えに行くなどの配慮をしてやっている。地域ボランティアであり、詳細な個人情報を集めていない。名前はお互い知っているが、電話番号などは自己申告で、半数位しかわからない。

糖尿病だった活動員が急に亡くなった。一人の人に負荷をかけないことが大事だ。

構成員：シルバー人材センターの会員は高齢化している。安全や不祥事などについて、定期的な講習会を開催している。植木剪定や工事などでは、定期的な安全パトロールによる作業の点検をしている。ヘルメットの着用率は97%、脚立や梯子で高さがある作業はやらない。車の運転については安全講話を定期的実施している。どんな仕事をしたいのか、どのような仕事をしていたのか、総合的に見て人の配置をしている。年1回の健康診断の助成もある。

構成員：事故の保険手続きの関係から、安全確保の提案を前回した。社会福祉協議会が扱うボランティア保険は無償活動、福祉サービス総合保険は有償活動でも保障する。令和元年度は17団体が加入された。その中で4件の保険事故申請があった。内1件が死亡転落事故、もう1件は電動草刈り機で足を切ったもの。安全靴を履いていたかが問われる大きな怪我であった。一方、トゲを放置して化膿したり、毛虫にかぶれたというものもある。

地域の団体なのであまり細かいことは聞けないが、健康状態を確認しておかないと、そこから大きな事故になる可能性がある。特にアレルギーは死亡することもある。

元々の健康状態に起因する事故は保険事故とならない。市民まちづくりサポーター保険には制約がある。福祉サービス総合保険は対応可能であるが、万全ではない。保険は具体的なサポートの一つであるが、社会福祉協議会だけではフォローできない。安全に関する具体的サポートについて支え合い協議会の場で検討してほしい。

構成員：市民まちづくりサポーター保険は市民部市民生活課所管の横須賀市の制度。予めの加入や掛け金は不要で、活動していたことが証明できれば補償される。補償額は少ないが、十分な保険に入る前に起きた事故などについて、補完的に利用できる。現

場の方に案内できるといい。

構成員：社会福祉協議会の関係団体には周知をしている。

事務局：支え合いガイドブックで市民まちづくりサポーター保険を紹介している。他の方法での案内も検討する。

構成員：参考だが、老人クラブは神奈川県老人クラブ連合会の保険に加入している。併せて、会員個人は民間保険に加入している。

（３）令和２年度の周知活動について

〔説明要旨〕

支え合い活動の理解を広げ、支え合い活動を始めるきっかけとなることを目的とする。

講演会、出前トーク、研修会の開催に加え、学校の福祉教育と連携した活動にも取り組んできた。支え合い団体の活動を紹介することによる活性化を狙い、パネル展示やPR動画により広報する。

〔質問、意見等〕

構成員：田浦での実践研修では、パネル展示が目立たなかった。気づかなかった人も多かったのではないかな。パネル展示していることをアピールすべきだ。

構成員：支え合い活動は他の活動と連携しないと広がりがない。市民活動サポートセンターののたろんフェアや、総合福祉会館のイベント等、人が集まる所に出向いて行くと目に触れる。

構成員：のたろんフェアでは活動団体の紹介をしている。支え合い団体ではグリーンハイツの「ゆいの広場」がここ２年ほどブースを出して活動紹介している。のたろんフェアで知ったことをきっかけに認知症カフェを訪れた人もいる。

個々の団体で出展するのが難しければ、支え合い協議会で出展することもできるのではないかな。パネル展示はできなくなったが、団体登録をしてブースを出せばPR効果はある。

構成員：まなびかん５階の廊下は申請すればパネル展示ができる。活動した人達のアンケートなどの成果を展示することで、参加した人の達成感をもたらすことができるのではないかな。支え合い協議会の活動を紹介するのもよい。

また、まなび情報というサークルや講師を登録情報がある。登録者を対象とした「スキルアップ研修会」という学習会を年に１回開催している。支え合い交流会や学習会では自分たちの活動のスキルアップに繋がるテーマで研修や情報交換といった学習会を設ければ、義務だけでやる活動と異なり人が集まるのではないかな。

構成員：講演会や情報交換会など年度予定が決まっているのか。決まっているとスケジュールが組みやすい。

事務局：来年度は未定。年度で調整することにはなっていない。

４．市全体（第１層）の取り組みについて

(1) 令和元年度 地域支え合いフォーラムの開催結果について

- ・日時・場所：1月23日（木）13時から16時30分 ヴェルクよこすか6階ホール
- ・基調講演 堀田力氏 「支え合いの地域づくりに向けて」
 - 若い世代に希望をもってもらうには高齢者が幸せでいること。
 - 「ありがとうは魔法の言葉」
- ・実践報告
 - 各地域支え合い協議会の取り組みを生活支援コーディネーターが紹介
 - 大津地域支え合い協議会の立ち上げから現在までを座長が紹介
- ・参加者 167名 主たる対象とした第2層協議会未設置地区から5割以上が参加した。6割の参加者は支え合いに関わりたいとアンケートに回答している。また、未設置地域の54名が支え合い協議会の説明に興味があるとして記名している。

〔質問、意見等〕

構成員：協議会に興味がある54名の方には、いつ何をやるのか。

事務局：3月10日に支え合い協議会の理解を深める会を予定している。内容はこれから検討するが、仕組みづくりに参加を促す内容となる。

構成員：内容のショートワークとはどのようなものか。

事務局：支え合いフォーラムに参加した結果、どのような形で参加したいかを問いかけた。具体的には、集いの場、支え合い協議会、生活支援のどれに参加したいか、議論して頂いた。

構成員：グループで議論したのか。何分くらいのワークか。

事務局：グループは作らなかった。着席している前後左右の方と議論して頂いた。15分ほどのである。

構成員：議論の様子はどうだったか。

構成員：グループワークはとても楽しかった。また、堀田氏の講演は専門用語を使わず、住民目線でわかりやすかった。自由にやりたいことができる高齢者という切り口が新鮮だった。そして、なぜ支え合いが必要なのかまで掘り下げられたので、とてもわかりやすかった

事務局：比較的活発に議論されていた。集いの場、支え合い協議会、生活支援のどれに参加したいか、堀田氏が参加者の挙手を求めた。多くの方が挙手されており、皆さんは前向きに参加されておられた。

(2) 支え合い団体数

- ・団体数は一つの目安であり、増やすことだけが目的ではない。
- ・生活支援は小学校区に1団体として計46団体を目安とした。令和元年度は小学校区で1団体、町内会等で42の計43団体が市内で活動している。前年比は1団体の増加。地域支え合い協議会と生活支援コーディネーターが、情報を集めながら支援

する。

- ・「週1回以上活動できる機会(会場)」を今年度から通いの場の定義に追加した。数を増やすことは限界であり、現状を維持することが大切である。同じ会場に月1回程度の活動が複数あることもわかってきた。国の基準は週1回以上の活動であるが、会場という視点で捉えて複数の活動で週1回程度の活動があることを把握することにした。
- ・令和元年度の週1回以上の通いの場は81団体あり、前年比29団体増えている。月1回以上では267団体で、32団体の増加である。月2回通いの場が開催されている会場は130会場であり、町内会館の3分の1を占める。通いの場活動は活性化しているのが見えている。
- ・通いの場を支援している地域包括支援センターによると、楽しく、簡単に、行こうと思える活動が高齢者につながるという。どのような介護予防が効果的か考えていく。生涯学習センターやコミュニティーセンターなどで介護予防に資する講座がある。それらを集約されて自然に提供できる仕組みも考えていきたい。

〔質問、意見等〕

構成員：通いの場の目安として人口1万人に10か所とある。なぜか。

事務局：国による目安である。15分圏内の場所に人口1万人に10か所つくるとなっている。現実的な目安かは疑問である。町内会館やショッピングセンターなどに変わる流れもある。生涯学習センターなどの介護予防に資する活動は、計上されていない。通いの場の考え方を見直せば、もう少し件数はあがると思う。

構成員：人口1万人に10か所というような目安は、地域によって違うように思う。

構成員：東北では60人に1か所の町内会館がある地域もある。地域によって目安は違ってよいと思う。一方、7,000人で1つの町内会館を使っている所が市内にあり、多くの活動が集中している。月2回以上が130か所という数字はどのような調査の結果なのか。

事務局：約380ある町内会館を中心に様々な団体が催す活動を集計し、会場として月2回以上の活動があったところを計上している。

構成員：コミュニティーセンターでの通いの場は調査の対象か。

事務局：コミュニティーセンターを調査対象としていないが、地域包括支援センターが把握している通いの場であれば計上されている。

3 各構成員からの情報提供

(1) 「のたろんフェア2020」 市民活動サポートセンターより

- ・日時・場所：2月8日(土)・9(日)10時から15時 市民活動サポートセンター
- ・104団体が団体紹介やバザーで出展する。市民活動サポートセンターには約700の登録団体があるが、過去最多の出展団体数である。
- ・2月8日(土)にはPRイベントをリドレ横須賀で開催する。

- ・特定の分野だけでは広がりにくい活動が、様々分野の活動とつながることで広がる
ことがある。福祉に限らず、環境、街づくり、子ども食堂など、横須賀には多くの
活動があることがわかる。ぜひ足を運んで欲しい。
- (4) 「まなびかんニュース」 横須賀市生涯学習財団より
- ・年間144,000部、月では12,000部を毎月1日に発行している。市の教育施設や駅に
配架している。
 - ・サークル会員募集として講師情報を掲載している。講師の中にはボランティア活動
を希望する方がいる。生涯学習センターで紹介できる。「まなび情報」として約700
人の講師情報が登録されている。地域活動を希望されている講師を紹介できるの
で活用してほしい。
 - ・まなび情報から「地域活動参加可能者リスト」を毎年3月に作成している。必要部
数を高齢福祉課が取りまとめ、生涯学習センターに連絡する。
- (5) 「みんなで創る地域の支え合いシンポジウム」 横須賀市老人クラブ連合会より
- ・日時・場所：2月10日（月）13時30分から16時 厚木市保健福祉センター
 - ・基調講演 さわやか福祉財団の堀田氏
 - ・事例報告 「助け合い研修で学んだこと」 横須賀市老人クラブ連合会西地区、他
 - ・足を運んでほしい。
- (6) 市の組織改正について 高齢福祉課より
- ・4月より高齢福祉課が、地域福祉課と健康長寿課に分かれる。
 - ・地域福祉課では、育児と介護のダブルケア、8050問題など制度狭間にある問題
や虐待に対応すると共に、地域の支援者のネットワーク化を一体的に実施する。
 - ・健康長寿課には、新たに健康保険課から保健係が移り、介護予防と国民健康の一本
化の流れに対応する。

次回会議日程は、5月19日（火）14時、市役所3階 302会議室

高齢福祉課長の閉会の挨拶により会議は終了した。

※この議事録は委員等の発言の要点筆記である。